

別紙

## 福祉サービス第三者評価の結果

### 1 評価機関

名称：一般社団法人 しなの福祉教育総研	所在地：長野県上田市真田町長 6918 番地 1
評価実施期間：H30年10月1日からH31年1月31日 * 契約日から評価結果の確定日（通常、評価結果報告会日）まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載）  061243、B18053	

### 2 福祉サービス事業者情報（平成30年7月現在）

事業所名：佐久市立大沢保育園 (施設名)	種別：保育所
代表者氏名： 佐久市長：柳田 清二 園長：金井八千代 (管理者氏名) 副園長：寺尾 明美	定員（利用人数）：45名（現員28名）
設置主体：佐久市 経営主体：佐久市	開設（指定）年月日： 昭和・29年6月1日
所在地：〒385-0045 長野県佐久市大沢789-1番地	
電話番号：0267-62-1128	FAX番号：0267-62-1128
ホームページアドレス： <a href="https://ww.city.saku.nagano.jp">https://ww.city.saku.nagano.jp</a>	
職員数	常勤職員：4名 非常勤職員：7名
専門職員	(専門職の名称) 保育士9名
	栄養士0名
	調理師2名
施設・設備 の概要	(居室数)：保育室3、乳児室1 ほふく室1
	(設備等)：遊戯室1、トイレ3、調理室1 医務室1、事務室1、園庭

### 3 理念・基本方針

#### 【佐久市保育理念】

- 子どもの最善の利益を考慮し、健全な心身の発達を図り、生きる力の基礎を培います。
- ・養護と教育を一体的に行い、子どもの発達を援助します。
  - ・保護者の気持ちを受け止め、共に子育てをします。

#### 【佐久市保育目標】

- 1, 自然の中で楽しく遊ぶ子ども
- 2, 心身共にたくましい子ども
- 3, 思いやりのある子ども

#### 【大沢保育園の保育目標】

- 1, 自然の中で思い切り体を動かそう。
- 2, 友だちと仲良く遊ぼう。
- 3, 思いやりのある子どもになろう。

#### 4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

○佐久市は、長野県の東端に位置し、県下「信濃の国」に歌われる県下4つの平の一つ 佐久平の中心に位置する、緑と清流に恵まれた高原都市です。市の中央には、滑津川・片貝川・湯川の各支流が注ぐ、千曲川が貫流しており、その豊富な清流により育つ佐久鯉は代表的な名産になっています。また、市内に広がる広大な肥沃地は佐久の穀藏と言われ、水稻をはじめ、りんご、もも、プルーン、高原野菜、花弁等の栽培が行われています。また、四方を見渡すと、北に浅間山を中心とした上信越高原国立公園、南に八ヶ岳中信高原国定公園、東に妙義山荒船佐久高原国定公園が広がり、その眺望は素晴らしく、秋には、コスモスがさわやかな自然の中にひととき美しく咲き乱れ、多くの観光客が訪れています。特に大沢地区は、夏は湿気が少なく冷涼で、標高700メートルに吹く風は涼しく、過ごしやすのが特徴です。

○大沢地区は、佐久市の中でも広大な立派な森林を有する山地区です。近年、美しい自然ときれいな水と豊富な森林を活かした「森林と若い人たちとを結びつける」活動が、ここ大沢地区をフィールドに進められ、都会の若者がボランティアとして、当地を訪れ、薪が採れる広葉樹の森に変える森作りのプロジェクトがスタートし、マウンテンカントリーとして期待されている地域です。

○大沢保育園は、昭和26年に旧大沢小学校の跡地に開園しました。隣には、佐久市の有形文化財に指定されている、木造2階建棧瓦葺寄棟造りの旧小学校本館があり、明治26年当時、村民あげて明日の村を担う子どもたちの学校建設として言い伝えられています。小学校が統合され廃校にはなりましたが、跡地にできた大沢保育園は、地域住民にとっては、小学校の想いでの場所としても親しまれ大事にされている保育園です。

#### 5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	初回
---------------	----

#### 6 評価結果総評（利用児調査結果を含む。）

##### ◇特に良いと思う点

##### ○地域との関係が適切に確保されている。

・佐久市の、保育事業についての中・長期計画及び入園の案内に、地域との関わりに関する基本的考え方が明文化されています。年間行事計画には、種々の地域交流事業が計画され、実施定着しています。地域との交流事業は、隣の地区公民館での運動会や敬老会、地域アルミ缶回収、世代間交流会（祖父母参観）、未就児交流、小学校との交流等が毎年、計画実施されています。信州型自然保育園に認定されて、山遊び、虫探し等の戸外活動、近くのお寺や神社への定期的な訪問交流を通して、地域との交流を深めています。

・保護者アンケート調査結果でも「地域との交流がたくさんできて大変良い」「自然にたくさんふれあい、のびのび生活できている」等、地域とのより良い関係が構築されていることをコメントからも十分伺えました。

##### ○保護者との信頼関係が構築されています。

・保護者アンケート調査結果では、「すばらしい保育園なので、もっと園児が増えて欲しい」「自然がたくさんある安心できる環境で、のびのびと生活でき大変良い」「子どもは、いつも登園を楽しみにしている」等のコメントがあり、全保護者が「満足」との回答があり、保護者と当園とのより良い信頼関係が構築されていることが十分伺えました

○適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。

- ・アセスメントツールは、佐久市の公立保育所の統一した様式により、保育課程に基づく適切な内容になっており、園児（保護者）のニーズ等に基づく適切なアセスメントの流れになっています。
- ・アセスメントに基づく指導計画の策定は、保育主任が中核として、担当保育士と話し合い、保育の専門職だけでなく、部門を横断した、給食関係等の参加による策定の仕組みがあります。
- ・指導計画書は、保育所保育指針や保育課程に基づいて、一人ひとりの園児の発達や状況に応じた内容になっています。
- ・佐久市の公立保育所で毎月実施されている「主任保育士会」においても、他の保育所のアセスメントや指導計画の策定についての情報交換が行われていました

○定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。

- ・保育計画の見直し評価については、主任保育士の管理責任により、定期的に見直しが行われ、クラス担当や職員からの意見を把握する機会を設定し、引継ぎや申し送り等で次の計画にも反映させる取り組みがあります。
- ・市で毎月実施されている「主任保育士会」においても、他の保育所の指導計画の策定についての情報交換が行われています。
- ・指導計画とクラス毎の指導計画は、整合性が図られていることを計画書で確認しました。

○子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。

- ・園児一人ひとりの保育サービスの実施状況は、佐久市の公立保育園の統一した記録様式により適切に記録されています。記録は職員が情報共有できるように計画の評価、見直し等も行われ、引継ぎや申し送りの機会も定められていて、職員の共有化の取り組みがあります。
- ・指導計画は、アセスメントから計画策定、実施、評価、見直し等のプロセスが適切に行われ、園児や保護者の意向も反映された記録内容になっていました。
- ・計画の評価・見直しは、年度途中で定期的に見直しが行われ、急な変更や支援困難なケースへの対応も、随時行う仕組みになっていました。

○子どもに関する記録の管理体制が確立している。

- ・個人情報の取扱いについては、保護者からの様々な意見要望もあり、園便りの内容等についても苦慮していることもあるようですが、個人情報保護規定に基づいて、適切に対応していることが伺えました。園児や保護者の記録は、園長室に鍵のついたケースに適切に保管されています。
- ・個人情報保護に関する職員の研修会も、定期的・計画的に実施され、職員の自己評価結果やインタビューでも、周知の徹底ができていたことが確認できました。
- ・保護者には、入園案内により個人情報保護について説明し周知が図られていました。

○一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。

- ・保育士は、一人ひとりの園児の家庭環境や生活リズム、発達状態を的確に把握することに努め、園児の個人差や特性を共有周知して、個々の園児の状態に応じた適切な保育支援を実践し目指していることを職員インタビューや指導計画書、記録等で確認できました。
- ・少人数の保育環境ということもあり、保育士も全体的にゆとりが感じられ、園児一人ひとりへの対応も制止する等の言動は、ほとんどなくゆったりとした保育が展開されています。
- ・保護者アンケート調査結果には、「家では、のんびりした子どもに親の私はイラっときますが、「個性ですよ。優しいいい子ですよ。と保育士に言っていただき、本当に嬉しかったです。」のコメントがありました。

◇特に改善が必要と思われる点

○利用者満足の向上を目的とする仕組みを整備し、定期的な満足度調査の実施をお願いします。

- ・園児本位の保育は、保育所が一方向的に判断できるものではなく、園児一人ひとりがどれだけ満足しているかという双方向性の観点が求められます。しかし、園児が自分の意志を十分に伝えられないことも考慮し、保護者の満足度調査を年1回以上実施することが求められています。園児の満足の把握、保護者に対する利用満足に関する調査を定期的実施して、調査結果を活用して、保育の

改善に向けた取り組みを組織的に、さらに進めていただくことを期待します。

○地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動にさらに取り組むことを期待します。

・保育園は、地域社会における福祉向上の役割を果たすために、地域の具体的な福祉ニーズ（特に保育ニーズ）を把握し、これに基づく保育園独自の公益的な事業・活動を行う機能も求められています。

・地域の唯一の子育て支援拠点として、母体である市の子育て支援課と連携して、地域の民生児童委員等の関係団体と協同しながら、福祉ニーズ（保育ニーズ）をアンケートや交流の場、相談支援窓口等で的確に把握して、課題の改善についての具体的な計画を策定して、実施していくことが求められます。さらに公益的な事業・活動を図ることを期待します。

○保育所が有する機能を地域に還元する具体的な取り組みをさらに図っていただきたい。

・地域との関わりをさらに進展させる方法として、保育園の専門的機能を地域に提供することが効果的といわれています。地区の子育て支援の拠点として、隣接の公民館等も活用して、保育・子育て支援に関する交流会や講習・研修会等を開催し、さらに地域に還元する具体的な取り組みを期待します。

## 7 事業評価の結果（詳細）と講評（別添 1.2）

（共通評価項目、内容評価項目）

## 8 利用者調査の結果（別添 3-2）

## 9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント（別添 4）